

日本と違う オーストラリアの常識

日本とオーストラリアの常識を比べると、文化や環境、国民性などの違いが浮き彫りになります。みなさんの身近にあるオーストラリアの常識をあらためて日本と比べて、『オーストラリアにしかない』、『オーストラリアならでは!』などという『限定モノ』をまとめてみました。

ダブル減点

西オーストラリア州では、祝日と週末を含んだ3日以上連続の連休やホリデーシーズンなどの定められた期間に、自動車やバイクを運転中に交通違反をすると、減点が2倍(ダブル)になります。この時期は外出先などでの飲酒が多くなりますが、十分に気を付けて運転しましょう。

建物の階数

日本は地上を1階として、その1階を基準に2階、3階、と数えますが、オーストラリアでは地上をグランド・フロア(表記:G)とし、日本でいう2階をファースト・フロア(1F)、3階をセカンド・フロア(2F)、というように数えます。

ナンバープレート

オーストラリアの自動車やバイクのナンバープレートは、好きなアルファベットや数字を6ケタまで使用でき、色やデザインなども選べ、日本と比べ比較的自由に設定できます。自分の名前や、好きなスポーツチームのロゴを入れたりしている車を見る機会もよくありますよ。

コンセント

オーストラリアのコンセントの形は三つ又で、日本の電圧がおおよそ100Vなのに比べ220~240Vと高いため、安全に配慮がされ、コンセントの周りに付いているスイッチで電流をオン・オフできるようになっています。

電車に自転車

パース都市圏の電車では、乗り降りする人の邪魔にならないように、自転車を置くスペースが車両の入り口付近にあります。時間帯はそれぞれの路線で異なりますが、基本的に朝と夕方のラッシュの時間帯以外は、自転車を電車に持ち込むことができます。

バスには小銭持参

西オーストラリア州では一般的にバスに両替機は備え付けられておらず、運転手さんの用意しているお釣りも限られているため、「お釣りがない」と言われることも。小銭を用意してから乗るのが常識なので、乗る前に確認しましょう。

硬水と軟水

一般的に日本の水は、硬度が低い軟水ですが、パース近郊の多くのエリアの水は硬水です。また、硬水はミネラル成分が豊富に含まれているので栄養補給にもなりますが、一方でたんぱく質が固まり、旨み成分が溶け出しにくいという理由から、水を使っての料理には適さないとも言われています。

18歳と20歳

日本では20歳になったら、お酒を飲む、たばこを吸う、選挙に参加するということができますが、オーストラリアにおいてそれらは18歳から可能になります。ちなみに、日本では20歳で成人ですが、オーストラリアでは21歳がそれに当てはまります。

単位

日本での生活で使うことがなく、オーストラリアで使われている単位に、距離を表す mile (マイル: ml など)、重さを表す pound (ポンド/パウンド: lb)、熱量を表す joule (ジュール: J)、温度を表す Fahrenheit (華氏: F) などがあります。それぞれ、陸上の1マイルは1.609344km、1ポンドは453.59237g、1ジュールは0.24cal、1°Cは33.800400°Fです。

サイン社会

日本は基本的に契約や手続きには印鑑が欠かせず、認印や実印などを使い分けるハンコ社会。オーストラリアではその印鑑のかわりに、本人の証明はサインで行います。契約等の前はよく考えて、サインは慎重にするようにしましょう。

1¢・2¢コイン

かつてオーストラリアでは1¢・2¢コインも流通していましたが、1¢は1990年、2¢は1989年に製造中止になり、1992年頃から徐々に流通から姿を消しはじめました。今ではキャッシュで買い物をした場合は、端数は切捨て、または繰上げされ、0¢か5¢にされます。その際、通常は買い物をした時のレシートの、"Rounding"と表記されたところに切り捨て、または繰り上げられた料金が示されます。